

病院に県立図書館サテライトを設置 - 図書館先進県づくり -

都道府県立図書館初の試み!



県立図書館

病院利用者（入院患者、
外来患者、付添い等）
の読書環境充実

お近くの方の利用もOK



地方独立行政法人
佐賀県医療センター好生館
(H25.5.7移転新築)

県は一つの大きな図書館
(ビッグライブラリー)

- 広さ4×6m
- 月～土、8:30～17:30
- 蔵書約2,500冊
- 職員1名（司書、交代制）
- 室内閲覧、貸出し
- 院内お届けサービス
- 本館の本の検索・取寄せ
- レファレンス
- インターネット閲覧PC



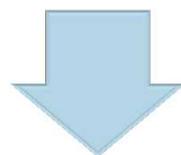
- 「日野原文庫」
- 電子書籍端末の貸出し



5 博物館・美術館の取組

文化・スポーツ部の組織目標

「世代の違いや障害の有無を越えて、日常生活のワンシーンとして文化やスポーツに出会い、楽しむ社会」の実現



基本的な取組戦略

「文化・スポーツに出会い、楽しむ機会を提供」し、県民が接する文化・スポーツの裾野の拡大

(1) 美術館の新たな事業展開

ナント美術館展

従来の美術展等のイベント

- ・美術館展等のイベント自体の開催自体に資本を投入
- ・チラシ、新聞での告知広報等広報も定型的



当該イベントに関心のある方やその周辺の人にしか届かない

「ナント美術館展」をきっかけに、多くの県民が日常生活のワンシーンとして文化・芸術を楽しんでいる社会の一つのあり様を示す

様々な「きっかけ」のメニューを準備

〔優れた芸術・文化に触れる機会創出事業〕

食

・まちなかブラッスリー
(各店舗半券持参で様々なサービス、特別メニュー)

音楽

・博物館ロビーコンサート



映画

・仏蘭西映画祭(シエマ)

割引

・ペア割引券付フリーペーパーの発行(全小学生に配布)

雰囲気

・街路灯フラッグ



話題性

・車内広告

文化に親しむ人々の裾野を広げる

まちなかの賑わいの創出にも貢献

(2) 博物館の新規分野に関する主な取組

従来の美術工芸品や歴史資料等に加え、メディア芸術等新分野に関する企画も積極的に展開



ドール展～マイドール！マイヒーロー！～

- 平成25年7月20日～9月16日
- 1億円のファンシーダイヤモンドリカちゃんをはじめ、約2000体のいろんなドール（人形）が集合



チームラボ展

- 平成26年2月～3月（予定）
- 国内外のメディア芸術の分野において、代表的芸術家集団である「チームラボ」の作品展



佐賀城本丸歴史館プロジェクションマッピング

- 平成25年10月（予定）
- プロジェクターを使って佐賀城本丸歴史館の建物や佐賀城石垣に映像を映し出す

6 今後の事業展開の可能性

食育県民運動

(くらしの安全安心課)

「食育ネットワークさが」に家庭教育の視点から関係課として参加

あなたとわたしの性の健康キャンペーン

(母子保健福祉課)

社会教育、家庭教育の視点から、連絡会議に参加

さが“食と農”の絆づくりプロジェクト

(生産者支援課)

体験活動の視点から、連絡会議に参加

防災キャンプ

(まなび課 = 消防防災課)

事業実施の協力体制、市町防災担当者会議で実施結果を報告

Ⅲ 今後の課題

まなびの風土づくりと裾野の拡大

- ・社会環境が急速に変化していく中、心身ともに健康で豊かな生活を享受するためには、いわゆる「総合的な生きる力」を身に付ける必要があるところ
- ・「まなび」の楽しさに気づき、自立した「まなび」を実現していくための環境として、文化、スポーツが重要な意味を持つものと認識
- ・ライフスタイルや価値観が多様化する中で、多彩な文化やスポーツに出会い、「気づきを得る」、「きっかけとなる」機会の提供が求められるとの認識のもと、今後更なる取組の充実が必要

地域課題への対応（モデル事業スキームの応用的展開）

- ・佐賀県における社会教育の取組のモデル事業とすべく、地域課題対応事業として、平成20年度に家庭教育支援及び学校支援事業に取り組んだところ
- ・実施地域においては、一定の成果が得られ、他地域での取り組みの拡大のため、普及に向けた取組を継続的に実施しているが、期待ほどには拡大していないのが現状
- ・地域の課題の状況により、地域活動の主体となる市民の意識や担い手のあり方など、モデルがそのまま適用できないことも考えられることから、地域課題ごとに関係部局と調整しながらモデルの拡大に向けどういった課題があるのか等に関する検討が必要

人材の活用に向けた取組

- ・講座・学級における「まなび」が定着する中で、多くの人材が育ってきているものの、その知識・経験が十分社会で活かされているとはいえない状況にあるところ
- ・特に、「知の循環型社会構築」に向けた取組が求められる中で、人材が適切に活かされていくためには、活動の受け皿となる地域との連携がますます重要
- ・今後は、地域課題と関連する関係部局との連携をさらに密にしながら、全庁的な取組が必要

ご清聴ありがとうございました。

